

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 調剤実績

当第3四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成22年11月30日) (枚)	前年同四半期比(%)
三重県	167,265	101.7
大阪府	50,481	102.4
京都府	54,626	104.5
山梨県	29,611	100.7
神奈川県	28,544	98.2
その他	82,011	102.9
合計	412,538	102.1

#### (2) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成22年11月30日) (千円)	前年同四半期比(%)
調剤薬局事業	薬剤料	3,239,634	102.2
	技術料等	884,369	104.9
小計		4,124,004	102.7
医薬品卸事業		160,370	97.5
ヘルスケア事業		164,756	130.0
不動産事業		18,828	104.3
合計		4,467,959	103.3

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第3四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年9月1日 至 平成22年11月30日) (千円)	前年同四半期比(%)	当第3四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,483,134	100.7	31
大阪府	681,915	104.0	9
京都府	570,817	108.5	8
山梨県	319,170	98.7	1
神奈川県	247,289	99.2	3
その他	821,677	104.6	20
合計	4,124,004	102.7	72

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、経済対策等の効果により企業業績に改善の兆しが見られましたが、厳しさを増す雇用情勢に加え、海外経済の減速懸念や急激な円高等により、景気の先行きは不透明な情勢の中で推移いたしました。

このような経営環境の中で当社グループは、コア事業である調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先した店舗運営を進めるとともに業容の拡大に向け取り組んでまいりました。医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の普及促進が推進されている状況下を好機と捉え、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームを今後の成長エンジンと位置付けし、今期から3年間で10施設の開設を経営目標として積極的に展開し、安定的な成長に向けて取り組みを強化してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間における連結業績は、売上高4,467百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益282百万円(前年同期比13.5%増)、経常利益267百万円(前年同期比19.8%増)、四半期純利益145百万円(前年同期比26.1%増)となり、いずれも順調に推移いたしました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先した店舗運営を進めるとともに、経営の効率化を推進する中で収益力の向上に取り組んでまいりました。その結果、既存店舗では処方箋応需枚数が増加し、売上高は前年を上回り、売上高4,124百万円(前年同期比2.7%増)、営業利益340百万円(前年同期比11.5%増)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、平成22年4月の薬価改定による薬価引き下げの影響を受けたものの、ジェネリック医薬品の普及促進策が進められる中で、売上高160百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益11百万円(前年同期比13.5%減)となりました。(内部売上高を含む売上高は220百万円となり前年同期比1.1%増加。)

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、既存の介護施設4施設に加え、平成23年2月にハーモニーハウスいなべ(三重県)、平成23年6月にハーモニーハウス伊賀(三重県)の開設に向けて取り組んでおります。既存の4施設が順調に推移した結果、売上高164百万円(前年同期比30.0%増)、営業利益22百万円(前年同期比29.7%増)となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により、売上高18百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益8百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は12,258百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,396百万円増加いたしました。

流動資産の合計は5,310百万円となり、前連結会計年度末と比較して770百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加500百万円、及び売掛金の増加149百万円によるものです。

固定資産の合計は6,947百万円となり、前連結会計年度末と比較して625百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産の増加290百万円、投資その他の資産の増加380百万円によるものです。

負債総額は8,677百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,123百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加247百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加684百万円によるものです。

純資産は3,580百万円となり、前連結会計年度末と比較して272百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益390百万円、配当金の支払額67百万円によるものです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は第2四半期連結会計期間末と比較して310百万円増加し2,391百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は274百万円(前年同期は231百万円の増加)となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益267百万円、仕入債務の増加額47百万円であり、主な減少要因は、賞与引当金の減少額110百万円、法人税等の支払額213百万円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は516百万円(前年同期は58百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出264百万円と、長期未収入金の増加による支出358百万円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は553百万円(前年同期は130百万円の支出)となりました。主な要因は、長期借入金の純増加額553百万円であります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。